'06 のべおか 第九

のべおか第九だより（第387号）
2006年11月4日 (土)

○発行　のべおか「第九」を歌う会
○事務局（延岡総合文化センター内）
〒882-0852 延岡市東浜砂町611-2
電話 (0982)22-1855
http://www.horita.jp/dai-9.html

---- 出席カードには会員番号を。練習中のケイタイ着信音はオフに。----

本日の内容
佐藤先生の直接指導

★ A (237～330小節) p.9～17
★ B (411～654小節) p.20～33
★ C (655～762小節) p.34～43
★ D (795～920小節) p.46～58
12月9日まであと**35**日

前回の状況	会員数	出席数	出席率	自己採点
♦ ソプラノ	28 人	20 人	71.4 %	55.6 点
♥ アルト	56 人	32 人	57.1 %	67.7 点
♣ テノール	21 人	10 人	47.6 %	70.8 点
♠ バス	22 人	9 人	40.9 %	75.0 点
● 合計	127 人	71 人	55.9 %	65.5 点

@長井先生の指導　　（10月15日：第九）

その付近の注意…●総合・♦ソプラノ・♥アルト・♣テノール・♠バス
その部分の注意…○総合・◇ソプラノ・♡アルト・♧テノール・♤バス
★…お話
（ドイツ語ウムラウトの発音“ö”をカタカナで“ォ”と表記してあります。また、ほかの部分やパートの注意でも全体に関連がありますので、読み飛ばさないようにお願いします。）

● 257 【Dei-ne Zau-ber～】 いつも般若心経のことを申し上げています。“Dei-ne Zau-ber bin-den wie-der, was die Mo-de streng ge-teilt; al---le Men-schen wer-den Brü-der, wo dein sanf-ter Flü-gel weilt.”どこがどう大事なのか全然わからない!? 皆さん全部平等なんだ。一番最初のこの言葉がフリードリッヒ・シラーという詩を書いた人、ゲーテと並び称せられる人ですが…一番言いたかった事がこの8小節の中にあるんです。“御前のZauber…”(“Dei-ne = おまえ”という言い方をしているけど“神”ゼウスのことね)“魔力が…”、(これはフランス革命が土台なんですね。貴族を平民がやっつけて平等にしようという。しかしある時代その2つは両極に分けられていた。それを御前の力がひとつにした…)“die Mo-de = 時の流れがstreng ge-teilt; = 厳しく分かれていたものをbin-den wie-der, = ひとつにしてくれた”、“al---le Men-schen wer-den Brü-der, = 民衆よ”、“wo dein sanf-ter Flü-gel weilt. =柔らかい神の羽の庇護のもとに皆で集まろうではな

いか”。そのことなんです。あたぁどうでもいいの。だから、是非!!般若心経ではなくして欲しい。“Zau-ber”、“streng ge-teilt;”、“Brü-der,”これがみなさん歌うときにカッコで括られている太い文字になっているように歌って!
……皆さん今歌った時、“Zau-ber”は良かった。残りの2つは皆さんの歌い方、ゴルフでやるときのようにしないでプッシュバンドしてる。それだとアクセントにならないんです。“al---le Men-schen wer-den”のところで引いて“Brü-der, ”。そのままの歌い方だとここを印象深く歌えない。佐藤先生の御指導のときにそうやって歌ってみてください。「お、ドイツ語をご存知の方に教わったのかもしれない…」となるかもしれない。

○ 262 【wer-den Brü-der,】 “wer-den”が一番高いもんだから、“Brü-der,”が弱くなってしまう。（“Brü-der,”を強く。）

♤ 284 【Ja,】 僕の手の合図で“Ja,”と出してみて。…なんでスグ小さくなるの!? それじゃどこかの花火大会だ。“Ja,ハイどうぞぉ〜”ってこっち(ほかのパート)に!?自分たちの仕事は終わったなんてしないで（笑）。
……ちょっと高級な技をご伝授しますね。“やー”じゃなくて“Jヤー”。なんて言いました僕? “ジャー”じゃないよ。お湯つぐんじゃないからジャーじゃない（笑）。歯ぐきのここ、摩擦音をね。そうするとね、発音が軽くならないんです。

○ 285 【wer auch nur】 バス以外のみなさんは1拍で“Ja,”だけど、“Jヤー”。
……“auch”(アオホ)というの、その次に“auf”(アウフ)【287】があります。これが両方“アウフ”って聞こえるんです。“ヤーベル アウフ ヌル…”って特にソプラノさん!? “アオホ”というのは難しいんですよ。“…ホ”というのは息が出るから。“auch”って書いてあるからってカナをふるときに“アウフ”じゃないんだ。“アオホ”。

● 289 【_ wer's nie ge-〜】 “nie ge-konnt,”が頂点なんですよ。で、この次“der”より前、はやめにdim.するということらしいので、それに従って練習をしてみましょう。“-konnt,”あたりから小さく、これ辛いですよ。頂点の音を小さくし始めるというの。

● 290 【konnt, der steh-le〜】 ホントはもっとレガートのほうがいいんだけど、全体をレガートにというのは練習でも難しいと思うから“… konnt, der steh-le”とdecresc.するときに…ココ、嬉しいことじゃないんですよ。さっき最初の8小節で“民衆よ神の庇護のもとに集おうではないか”と言いましたよね。でも独りよがりのがいてその歩調に合わせられないものはこの輪、地球“Er-den rund!”から“wei-nend”泣きながら“die-sem Bund.”我らの集まりから立ち去れ! と。だから“wei-nend sich aus”はウキウキしないで。そういう思いを伝えて!!

◇ 313 【Küs-se gab sie】 僕には“キュぅ〜セェ…”って聞こえるんです。テノールさんも気をつけて! 2つ目の音譜が“ぅ”になっちゃってるんです。だから救世軍に聞こえちゃんだ。2つ目の音譜も“ü”。曖昧母音というのね。

♣ 313 【Küs-se gab sie〜】 ここ、テノールは音程大丈夫?? 個人的に自信あり??

● 313 【Küs-se gab sie〜】 アルトとバスが単純音形で上ソプラノ、テノールが細かく歌います。そこで“キュー、セー、ガプ、ジー…”と切れないように。

○ 313 【Küs-se gab sie】 “gab”、“ガブ”って言わないで! “ガプ”。あとで出てくる“geben”という言葉の命令形なんですけどね。 “b”だけど“プ”。bは=pにもなり得るので。

★ 313 【お話し】僕はやっぱり東京で指導させてもらっている「第九」に「墨田区の第九、武道館の第九、○○の第九…私は今年で二十何年かになります…」というお爺ちゃんがいたんです。男性の音とりだけのときにですね、この顔がわかってる人だったからちょっと一人で歌ってみてくださいとやったら、全然デタラメのことを覚えてらっしゃった。もう二十何回か歌ってるとこびりついちゃってるわけね。最初に覚えちゃったのが修正きかなくなってしまっているんです。なぜそうやって当てたかというと、周りの人が歌いづらくしてたからなんです。周りの若いおにいちゃんたちが歌ってるときチラっこチラっこその人を見るんです（笑）。そういうことがあるから、隣で変な音を歌っていたら見てあげてください。その人になんとなく気がつかせてあげてください。それがないことを祈ってるけどね。ここと最後のPrestissimoのところは結構ウソを覚えてしまっています。…いや、ここがそうだとは言ってませんよ（笑）。

♦ 317 【-lust ward dem〜】 “Wol--lust ward dem Wurm ge-ge-ben,”は強弱が全部逆! (…-lust …-ben,を強く歌ってる?!)。“Wurm”が大事。“dem”が大事。“ge-”が大事。だから必ずしも高い音が強く歌うわけではありません。

♡ 324 【Gott, steht_】 “steht_”ここはアルトがとっても印象的に誇らしげに出るところです。

◇ 325 【steht vor】 “steht ”、ソの#の音ね。ここもしっかり出てください。

○ 330 【Gott.】 “Gott,”は“ゴー”という熱量と等しく“tt,”!! 前の人の後頭部につばきがかかっても構わない（笑）。“神様!”って言ってるんだからね。

★ 330 【お話し】ここはいろんな指揮者の方がいるけど、指揮の手を回し始めるから切るかというと、そこから煽る人もいる。“ゴー”とやってるかと思うと突然切る人もいる。だからオーケストラと先生が合わせるときにどの切り方をされるかを見ておかないとね。みなさんの譜面にどう書いてあるかな?…あ、書いてあるかいてある。みなさんの“Gott,”はdecresc.しないじゃないですか。ところが伴奏の一番下を見てみてください。decresc.が付いてるでしょ。オーケストラがdecresc.するんですか? そうじゃない。ティンパニがdecresc.するんです。だからほかのラッパとか弦の人たちが皆さんをサポートしてくれるんです。お勉強になったでしょ。だからオケ合わせのとき、ティンパニを見てると…バチをだんだん小さく動かしていつの間にかいなくなってますからね。

○ 411 【Lau-fet,】 “L”の発音、もうちょっと前ね。そうすると人数よりたくさん聞こえるんです。ディフォルメして聞こえるんです。

★ 411 【お話し】みなさんのは速さが84かな。コレ、1拍が84。ところが新ベーレンライター版によると2拍が84。だから普通我々が知っているテンポの倍速いということです。なぜそういうことが起きてしまったかというと、もちろんベートーベンが耳悪くして、聞こえなくなった頃に「第九」の譜面を書いてるんですね。そこに筆記で自分のアシストをしてくれている甥っ子のカールというアホがいて、(音楽史上でも“dumm=アホなカール”と言われていて)しょっちゅう間違いをおかしているんです。このために後世ものすごい混乱が起きてるんです。だからここは「2分音譜=84と書かなくては行けなかった所を4分音譜=84と書いている」というのがベーレンライター版の主張なんです。ここは白いマルなんだ。ということは倍テンポが違う。それでホントにそのスピードで歌ってごらんなさい。テノールのソリストが歌えないから。実際はそのぐらいのテンポなんです。だから今日は“やや速”で練習しておきましょうね。

○ 422 【Sie-gen,】 “ゲン,”?! パチンコ屋さんになんとかのゲンさんってぇのがあったけど（笑）、“勝利”という意味ですよ!! 競馬に当たっても“Sie-gen,”（笑）。……ガギグゲゴの“ゲ”じゃなくて、“ガ”と“ゲ”の中間。

○ 543 【Freu-de,】 そうだこの音だ!! という割にはみなさん“フロォイデェ〜…?!”（笑）。

★ 543 【お話し】ここね、さっきの“Laufet, Brüder…”のテンポのままなんですよ。でもみなさんはこの“Freu-de, schö-ner…”が出てくるまで一休みなんです。その間がちょっとスリリングな場所じゃないですか。でも“Laufet, Brüder…”が速いということは、ここも速いということなんですよ。オケは「俺は弾けん!」って弾いてるかもしれないですよ。

○ 548 【aus E-】 “E-ly-si-um,”という発音が気になるね。“Küsse”と同じ発音なんです。“E-ly-si-um,”の“y-”。…ま、いいか?、ドイツ語の延岡なまりで（笑）。

● 566 【teilt; al-〜】 “al---le”こっからフォルテが2つなんです。ここでみんながテンションあげて欲しいんですよね。“Freu-de,”【543〜】のところからはフォルテ1つなんです。最初、みなさんきっと100%で歌い出しますよね。そしたらここから150%にしてもらわないと。最初80%でここから100%なんていう加減はここではできない?! 「ここだけは子供でも知ってるワイ!」って歌うところだからね。

○ 575 【Dei-ne】 ひととおり歌ってここでまた“Dei-ne Zau-ber”と戻るでしょ。そのときに戻ることをちゃんと承知して歌って。ちゃんとリフレッシュして歌って。「…あ、そうだまだあるんだぁ?」じゃなくて。「もう1回歌い直すんだ!」という感じでね。

○ 595 【Seid um-】 このあとは男性が出ますけど、ガリバー旅行記の大人国のように音譜が長くてどっしりとしていますね。その一番最初の言葉が“ザ…”。僕は歌唱指導、発声指導でよく言うんだけど、子音には瞬間にしか発音できないものと長さを持てるものがある。それで“ザ”、ほかに“ヴァ”、長さがありますよね。瞬間にしか発音できない子音“タ”、“ガ”。“マ”って準備ができますよね。濁らない“サ”もそうですよね。ここは幸いに“ザ”ですから、ドン“…ザー”。たっぷりして出てください。
……“Seid um-”のあいだで間があかないように。“Seid…”と減衰しちゃってるんだ。音は減衰しないで。

○ 598 【o-nen!】 “オぉ〜ネェん”じゃない。“オ、ネン”(スタッカート)。エスカレータ、使わない。なぜかっていうと、“o”のところになんか点がついてるでしょ。ということは“オぉ〜ネェん”ってこたぁあり得ないんだ。ひとつひとつなんです。

○ 612 【ü-berm】“ü--”（笑）。“Brü-der!”でエネルギー使い果たしてるけど、“ü--berm”のほうが大事なの。特にベースはテノールと同じ高さ無理だよね。テノールさんがここは頑張って。

★ 617 【お話し】これは世界一流の合唱団であってもアリなんですよ。ベートーベン、バッハもそうだしヘンデルもそうなんだけど人間の声でコーラス譜を書いてるんだけど、オーケストラの一員として書いてあるんです。だからフレーズがものすごく長いんですよ。だからカンニングブレスというものが存在するんです。

○ 618 【woh-nen.】“ヴォ〜ネェン”じゃない。“ヴォ、ネン”(スタッカート)。もう癖がある人がベースにいる!?

○ 619 【Brü-der!】 みなさん、ここ、音量は何って書いてあるかな?
f。ところが (f) となっていませんか?! どの譜面も (f) なんですよ。ハート的にフォルテだけども、万感の思いで呼びかけてるんだけども、やさしさが欲しい。勢い込まないで。そこで優しさを出してくれると次のAdagion ma non troppo, divotoという“Ihr_ stürzt nie-der,”【631〜】につながるの。dovotoというのは敬虔に祈りを込めてという意味。だからここは万感の思いは込めるんだけども、それはとってもやさしい思いであって、真っ正直のfではないこと。

○ 622 【zelt muß_】 （“muß_”を早く出した団員がいたため）あ〜チャウチャウチャウ!!! フライングしたらダメ。
★ 622 【お話し】よくあるんですよ。オーケストラのチェロバスをさした指揮者の合図を勘違いして出たりするんですよ。カラヤンさんなんかだともっと大変。カラヤンさんは見ませんからね、目ぇつぶって降ってますからね。自分に指示されたかと思ってでちゃうんですよ。

○ 625 【Va--ter_】 “lie-ber Va-ter”の間でブレスをできるだけしないように。もっと前後でして。でもみんながしたくなるんだココで。意味は“愛すべきお父さん”。ここをさけたらどこでブレスすれば良いかということは例えばコーラスは言葉の途中でも構わないんですよ。“lie★ber Va-ter”(★：ブレス)でも構わないんです。そういうことは潔癖に解釈しないで。
……女性の胸を見てると皆でブレスしたのがバレますね。やっぱり飛ぶ所で吸ってらっしゃる。もうちょっと前後で。音が切れてるんだもん!

◇ 631 【Ihr_ stürzt】 “イ〜ィル…”ってポルタメントが付かないように。“r_”は上で言って“stürzt”は下。なよなよって色っぽくならない。

● 631 【Ihr_ stürzt〜】 教会にはいったら、こうやって祈っている人がいますよね。“Ihr_”あなたがた、“stürzt”膝まづく、“nie-der,”低く頭をたれて。「神の前に膝まづきなさい」というくだりなんです。

○ 634 【o-nen?】 “Mil-li-o-nen?”の語尾、高くなったここが語尾だから男性、気をつけようね(高いからといって極端に強くしない)。

● 637 【Schöpfer,〜】 “Ah-nest du”で“予感がする”。我々をひとつにまとめてくれる創造主が出現する。そういうところで“Schöpfer,”を“シェッフエルぅ…”って言わないように。もっと品よく“ショッフェル” oとeの中間なんです。

○ 637 【Schöpfer,】 開き過ぎ! “シェ…”じゃなくて“ショ…”。“Göt-ter-fun-ken,”のときも直したかったんだけど、みなさんほとんどの方が“ゲェッテルフンケン”っておっしゃってるから。有名な詩人は? “ゲェーテ”? “ゲォーテ”それもそう。だからメインテーマのとこも“…ショーネル ゲォッテルフンケン…”。

○ 638 【Welt?】 “ベルト”って言わないでね! “ヴェルト”だから。“全世界”。

♡ 654 【---nen.】 たいていの合唱団に行くと、ソプラノが下がるけど、ここはアルトだね。低いというか、低くなっていくね。最初1本だったものが段々枝分けれしちゃって…女性の方々、髪の毛はこうなっちゃいけないんでしょ。そんなときに譜面に何と書いておけばいいかというとね、斜め矢印を上に向けて書いておくといいです。そういうイメージで伸ばす。

♡ 655 【Seid_ um--】 さきほどのバスの“Ja,”【284】と一緒で“Seid_”に集中。……“ザォー”って唇をかぶせない。暗い。時部の手元ではfに聞こえるんですけど、お客さんに届く前に自分の唇がフタしてるから。

● 655 【〜】 今、歌い出しはそういうふうに聞こえてるんですけど、昔僕が来たときに“Seid_ um--schlun-gen, Mil--li--o-nen! …”というものに対して“Freu-de, schö-ner Göt-ter-fun-ken, Toch-ter aus E-ly-si-um, …”というものを両方が5分5分に同じ歌い方をするとアルトが低いから

負けちゃうんですよ。アルトさんは1歩1歩歌ってる感じで、ソプラノは軽く。fでも気持ちは軽く。これはその後、どのパートに出てきても同じ。“Seid_ um--schlun-gen, …”は1歩1歩。“Freu-de, schö-ner …”は流れてください。同じ歩調になると“Seid_ um--schlun-gen, …”のメインテーマが印象深くならないんです。

♥ 692 【Seid_〜】 これ、フーガの最初に出てきたテーマでしょ。だからここもアクセントを付けて。とってもしっかり。

♠ 702 【Seid_〜】 “Seid_um--schlun--gen, …”出た瞬間が大事ですから。その3つ4つの音譜は一つひとつが全部アクセントついているみたいに。特に“Seid_um--schlun--gen, ”までは特に大事。印象深く。お客さんに「ベースが出たな」と印象深く伝わればいいです。

♦ 718 【Welt!_〜】 ソプラノさん、この伸ばすところどうしてますか? 適当な所で息吸ってますか? うぅんと適当がいいからね。皆が「私の息がなくなったら吸おう」とおもってたら、おんなじようなところで切れてしまうんですよ。だからまだいっぱあるうちにブレスをしちゃってください。

♤ 730 【Ihr stürzt】 ここは6拍子じゃないですか。その6拍目のところで“stürzt”と言わなきゃいけない。滑舌、早口が言えるように。正六角形で歌ってるみたいに。
……あの、オッチャン達ぃお願いだから2分音譜と4分音譜なんですよ（笑）。今みんな短くなっちゃってるから。白いマルはもっと長く。そういうのって、さっきベテランの悪口言ったけど、そんな人は一旦覚えちゃったら4分音譜も2分音譜もないんですよ。

♡ 738 【Such' ihn】 アルトさん、“Such'”。そうしないと男性がここまで充実させてきたところでエアポケットみたいになっちゃう。

★ 738 【お話し】ここと違ってNHKホールなんかだと2500人なんですよ。それを5日も6日もやるんです。それで冬だと厚ぼったいものを着てると音が吸収されて“ズ…”!? だからある年の指揮者なんて「ここはテノールも歌って…1オクターブ高く」。そうすると実音が一緒なんですよ。男性と女性の実音は1オクターブ違うんですね。だからテノールにアルトが聞こえやすくなるところまで手伝わせるんです。そういう指揮者もいるぐらい、ここは声が欲しいんですよ。

● 749 【ü〜】 ここの“ü”は“Brü-der!”の“ü”とおんなじですよ。“ウーベル…”って聞こえるから“ü-ベル…”。“ü-berm Ster---nen-zelt”というのは“星のまたたいているその上”という意味ですよ。“その上に神様がいるに違いない…”と歌っているんです。

♡ 753 【zelt muß_】 他のパート見てくださいアルトさん。“muß_”はみんな同じ音なんです。アルトだけ下がって歌う分、聞こえるように歌ってください。fでなくていいんですよ。私たちが今ここでイニシアチブをとってるんだという思いで歌って。

♡ 762 【-nen.】 アルトさん、ちょっと…（下がる）。メール打つときそんなマークあるじゃない、“今日、私だめなのぉ…”って（笑）。そうならないように。

● 795 【Dei-ne Zauber,〜】 糸井先生がみなさんを試します。ここにくる前にソリストが全員歌っています。僕も彼女がどこから弾き出すかわかりません。僕も振りません。幸いな事にここはpから出ればいいですから、段々気がついて加わればcresc.に聞こえるの（笑）。…いかがでしたか? ちゃんと出られましたか? ここは指揮者も間違える所ですから、要注意です。特にこの直前のソプラノソロが“dei-ne Zauber, dei-ne Zauber,”と歌いますから、それを聞いておく事が大事です。そしてpと書いてある横に即cresc.と書いてありますからね。
……最初に“Dei-ne Zauber,”【257〜】があったでしょ。あそこよりここはテンポが速いんですよね。そうすると皆さんの発音が“ダイネ〜つぁ〜ベル”に聞こえるんです。“Zau”、“ツァォ”が言えてないんです。“Zau”じゃないですか。“ツァォベル”。

○ 795 【Dei-ne Zauber,】 “Dei”が弱い。言葉が弱い、だけどpじゃなきゃいけない。どうしたらいいんですか? 息で歌うんです。声で歌うと“…ァイネ”しか聞こえませんね。
……あなたたちが p で入るときはソリストたちはきゃぁきゃぁ歌っています。その中で入るときには“D”を効かせて欲しいんです。

● 797 【bin-den_〜】 “bin-den_wie-der,_”、“ビーンデェン、ヴィーイデェル”。“b”は弾く。“w”は長く。

● 810 【Men-schen wer-den〜】 個人的にここの“> p cresc.”を理解して。“Men-”は強いんですよ。でも“-schen”は突然 p 。“wer-den”はcresc.って書いてある。“Brü-der,”は“>”って書いてある。ベートーベンが1小節2小節という短い部分で出入りを書いて注文してあるのはここだけです。だから

一人ひとりが理解して歌って。音譜の間にdecresc.とかcresc.を書いてあるんです。のっぺらぼうで歌わないようにね。

♦ 812 【sanf-ter〜】 「私、最近声が揺れ始めたかもしれない!?」と思われた方も“sanf-ter Flü-gel weilt._”を挙だかなんだか…（笑）。ベートーベンの指示した小さい音譜なのかビブラートなのか分からなくなるんですよ。細かく歌って“Flü-gel”は大事なんですよ。絶対揺れないでよ。お客がダンボになるところです。

★ 812 【お話し】合唱団というのはね、どこでもそうなんだけど僕も15周年を迎える合唱団、100人を超えるのを指導してるんだけど「今、あなたのその音程、違うんですよ!」って言えないんです。皆ととっても親しくなってるんです。飲み会になると「先生ぇ、もうちょっと個人的にビシッと言ってくださぁい〜。」なんだけど“ビシッと言ってください”というのは声に自信がある人みたいでね、僕ばビシッと言おうと思ってる人がそう言ってくれるといいんだけどね。その人はそういう発言をしないの（笑）。それでパートリーダーが頑張りすぎたりするの。ほかにある音形までは歌ってそれを超えると限界を超えるんでしょうね。でも歌っていたいから自分の限界を超えた音色で歌っちゃうんですよ。そういうときは僕、ほかのほうを向いて手だけ「そのへん?、そのへん!…僕の欲しくない声が聞こえるぅ」（笑）。そのときはね、みんなが“私かな!?”と思って。これが大事なんです。良い意味での謙りね。“私じゃないよ!”と思う人はアンサンブルの中にふさわしくないの。“die-sem Bund.”(泣きながら立ち去れ)なの。そういうことでここの“sanf-ter Flü-gel weilt._”は変わるかどうか。

◇ 813 【Flü-gel weilt._】 やっぱりお気づきになってらっしゃらない方（“Flü-gel”で一人違う声が聞こえる）がいるから、「私かな?」と…。「あなたですよ!」と他から言われるより前に本人が気づく事が大事ですから。
……邪魔な声がなくなった!?でも全体的に弱くなった。それでは戦力にならない。みんなが「私かな…」って自意識高いな（笑）。

♧ 813 【Flü-gel weilt._】 テノールさん、“Flü-gel”って上がるでしょ。ほかのパートを見てごらん、そんなパートないから。ここは声楽的にとってもきれいにね。「お客さん、俺たちの美声を聞いてくれや!」って思いで歌ってほしいですね。
……“weilt._”下げていくときに、自分の頭の感覚は逆に上に上がるようにしないと。音といっしょに感覚も下げちゃうと絶対音程が下がります。

○ 855 【Seid um-schlungen,】 自分たちが「待ってました! 待ってました! 」って“Sei…”特に男性の人たち。女性もそんな溜めがきくはずだから。
……“Sei…, Mil-l…”って後ろが弱くなるってそんなの瞬間芸じゃないの。全部 fですよ。そんな節約しないの（笑）。

@長井先生の指導　　（10月15日：大地讃頌）

★ 【お話し】大地讃頌というのは佐藤先生もこれはご存知じゃないのかな、この曲が発表されたときはこの「土の歌」の中の1曲だったんです。だけど大地讃頌だけがひとりあるきして全国津々浦々歌われています。一番歌われるのが学校内の校内合唱コンクールの課題曲とか…。合唱が盛んな中学などだと混声4部でクラス単位で課題曲で歌えちゃうんですよね。
私は毎年横浜の関東学院中学校というところの合唱コンクールの優劣を付けなきゃならないんですよ。2月に審査委員長で招かれるんです。そこは3年生がこれが課題曲。僕の生徒で今も藤原歌劇団で活躍している柴山くんというバリトンんの歌手がいるんですけども、この人のお父さんがもう70歳を超えられたかな…中学校の先生をされていた方がいらして、その先生がお若いときに三鷹第三中学校というところに奉職なさってて、最初は音楽不毛の中学校だったところに校内合唱コンクールというものを立ち上げて、何年目かに1年生から3年生全員にこの大地讃頌を歌わせたそうです。
今、みなさんが持っている楽譜は改訂版なのですが、“平和な大地を”の“大地を”の部分はオクターブ上で音譜が書いてあった頃があるんです。この改訂版になる前までは中学生でもよく歌えるようにベースの旋律がオクターブ上に小さい音譜が書いてあったりしたんですよ。そして#が5つなんて中学生が読めない。柴山先生がハ長調の譜面になおして、幸か不幸か絶対音感の子供はいなかったのか先生が半音低く弾いて歌わせても誰も違和感を感じない…ハ長調の譜面だったら楽でしょ。実際は変ロ長調でピアノを弾いたんですって。そうしないとテノールが大変だから。それからその中学校は毎学年、毎学年、大地讃頌、大地讃頌できたんですって。
そのうちそのことがほかの中学校に伝わるようになって「あれはなんという曲だ?」ということで。それがだんだん水の輪のように広がっていって、その広がっていった事を柴山先生が喜ばれて、そうして今「水の輪合唱団」というものをおつくりになっているんです。
先生はいろいろ転勤なさった学校でも大地讃頌を取り上げられて、いろいろな卒業生が先生のところに戻ってきて芸大に進んだ卒業生なども混じって混声合唱団ができています。銀河鉄道999のサウンドトラックの合唱などで録音参加してるんですよ。それとか全国コンクール課題曲の模範演奏とかこの合唱団がやったりしています。
今度11月3日にも先生の小金井の合唱際に招かれて講評メモを私が書くのですが、今でも柴山先生は水の輪合唱団というところを大トリでお振りになるんですね。お会いするのが楽しみなんです。大地讃頌にはそういう因縁があるんです。

◇ 71 【ははなるだい地の ふとこーろに　　よろこびはーあ】 “は”の出だしは喉をとめて“は…”と出ないで“h”の発音を少し前からやらないと。もっと柔らかくね。

○ 71 【ははなるだい地の ふとこーろに　われらー ひとの 子のー よろこびはーあ】 最初の“は…”ソプラノだけひとつ高いじゃないですか。アルトとテノールを同じにして、ソプラノとバランスをとるようにしているんです。全部音を変えてしまうと、ソプラノが絶対強いから。“出”の音を間違えないで。…違う音が聞こえるんだなぁ?? 移動度でいうと“ド”(バス)、“ソ”(テノール)、“ソ”(アルト)、“ミ”(ソプラノ)です。この瞬間に出た音を大事にしましょうね。

● 74 【へいわなー だい地をー しずかなー だい地を だい地をー ほめー〜】 穏やかだけど、言葉が伝わるようにね。

○ 74 【へいわなー だい地をー しずかなー だい地を だい地をー ほめー】 “しずかなー”の“し”は“静か”というイメージで。いまは“し”の言葉がとっても立ってるんですけど、“静か”というイメージがない。

○ 75 【よー たたえよーー つちを われらー ひとの子の われらー ひとの子の だい地をー ほめー】 “たたえよー”というのがちょっと弱いけど。

○ 76 【よ ほめよ たたえーよー はななるー だい地をー ははなるー だい地をー たたえよ ほめ】 オーケストラは皆さんのために待つ事ができません。“ははなるーだい地をー”と歌って“ははなるー”の間で時間がかかっているんです。その間にブレスは入れるんですよ。そのブレスの間もテンポでつながなきゃ。それがブレスのために0.25拍ぐらい遅れてしまっちゃってるんです。オーケストラはインテンポで刻んでいますから、遅れないように。

○ 77 【よーー たたえよ つちを ははなるだい地をああ たたえよだい地を ああー】 最後の“あー”はその前のブレスは? 「たっぷり切られましたよ」(今村先生)…いや、ほぼ全員がスグいっちゃったから?! そんならそぉやって歌えよぉ（笑）。僕だけ敵なのかなってビックリしちゃった（笑）。息をした後はみなさん、“あー”しかないんだからぁ、顔あげたら?! 指揮者が切るときまだ譜面を見てる人がいるんだよね。……“…たたえよだいちを”までの充実感と最後の“あー”がかけ離れてるの!! なんか最後の“あー”のために今まで生きてきたというような。それまではえらく節約節約の人生で…（笑）。

★ 77 【お話し】指揮法というのがあって、指揮のやり方の図が書いてあるんです。それは上から下に“1”という数字が書いてあるんです。大ウソなんですこれは。下に降りて上がるところが“1”なんです。

これをアウフタクト指揮法というのです。そう思って歌って!! そうしたらうんと溜めができるから。

♦大ホールで合唱。美しく豊かに響きますように。(夢子)
♦土の歌はなかなか良かったのではないでしょうか。次は佐藤先生です。暗譜、頑張ろう!(セロ弾きのゴーシュ)
♦土の歌、きちんと歌えるか心配です。
♦今日も元気に歌います。楽しい時間になりそうです。
♦かぜで声が上手にでなかった。(ナツガール)
♦今日は小ホールに入った時、人数が少なく、皆さんステージの上におられたので別な所に来たかなととまどいました。でも楽しく練習できました。後、第九でうたうまで時間があり、久々に延岡市のいろいろな方たちの音楽に親しみました。「土の歌」は皆さんと一緒に大ホールのステージの上で楽しく歌えました。
♦2回しか来ていないので、みなさんにみたいに上手く歌えなかった。
♦発声練習の時と歌う時の発声がいまいち合致しません。
♥今日は市民音楽祭に出演します。ちょっと人数が少ないので心配です。5人分位がんばります。(アッちゃん)
♥暑かったので「額に汗して」歌いました。まだ音が正確に取れてない部分があることを自覚。少人数だとはっきりわかるなぁ。練習あるのみ!
♥柳田先生、素晴らしい。御指導、感謝いたします。遠方からおいでくださいまして有り難うございます。
♥ステージで歌えてとても幸せです。(ヨッチン)
♥今日の練習はいつもより人数が少なかったけど、楽しく練習する事が出来ました。
♥今日は市民音楽祭と重なり、大変忙しい一日でしたが、また楽しい一日となりました。
♣市民音楽祭、がんばりましょう。
♣緊張しましたが、良い練習になりました。(river)
♣ガンバルゾ!(かわの)
♣第2テノールは少人数なので、うまく歌えるかな?
♣いい練習ができました。(K.C.)
♠今日は合唱際で旭陽会の方が先に唄ったあと、こっちで土の歌をうたいます。年末に向けて練習練習!!(マッチャン)

●編集後記

次回は**11**月**12**日（日）13:30〜16:30

今回の第九だよりは先日の長井先生の指導を掲載しました。「第九」中心の御指導でしたが、内容は各自読みながら思い出してみてください。

さて、前回の練習日は市民音楽祭と重なり、また違った意味の“本番を意識した”練習となりました。

【※前回、出席カードを出し忘れた方は、**日付を10月22日と書いて**本日とあわせ2枚出してください。】

当日の様子は私のBlogの10月22日付に動画を掲載しています。（http://blog.horita.jp）「土の歌」もですが、私、個人的に参加しているロブスター合唱団のものもありますので、どうぞご覧になってください。今日は佐藤先生の御指導です。この内容は次回の「第九」だよりに掲載予定です。…予定です。はい。（ちょっと最近、帰りが遅いので夜の作業時間が短いのが悩み…）【munenori@horita.jp】